

包装タイムズ

THE HOSO TIMES

発行所

60plus1

日報ビジネス 株式会社

Vision Vitality Victory

(東京) 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5

電話03(3262)3463 FAX03(5276)4431

(大阪) 〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11

電話06(6262)2402 FAX06(6265)7127

4月9日 No.2835

-----2018年(平成30年)-----

週刊 月曜発行

発行人 河村 勝志

昭和41年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年間 23,900円+税

(定価) 1部本体 509円+税

2018年(平成30年) 4月9日(月曜日)

包装機/軟包装

(4)

ロボ技術で付加価値を

農業ロボット研究会

果実検査、ロボハンドの講演

ロボット技術による農産物の付加価値創出を目的とした「第4回 農業ロボット研究会」が3月19日、さいたま市・新都心ビジネス交流プラザで開催された。主催は埼玉県など4団体、事務局は埼玉県産業振興公社。

講師にモモシンクイガ被害検出システムの開発を行う山梨大学の小谷信司教授、ロボットのハンドの開発を手掛けるスキューズ(京都市南区)の廣畑健一(副)が、本部長を招いて講演が行われた。

モモシンクイガは、微小の幼虫時にモモなどの果実を食害する。2010年に台湾の輸入検査でモモから検出され、台湾で山梨県産果実の輸出が禁止されたことを機に、小谷氏は全数検査にも対応できる被害検出システムの開発を始めた。

同システムは、ワイヤをX線で撮影し、画像解析を行うことで被害の検出を実現する。3台のパレットで連続的に検査できる仕様とした。現在は実用化を進めるべく、ふくしま未来農協などでの実証試験の実施や、モモ以外の果実に応用するための検証を続けている。

スキューズのロボハンドは、形状に個体差がある果実などハンドリングが難しいワークに対応したもの。空気圧アクチュエータを使用し、指ごとの「拮抗制御(対向する二つの力を釣り合わせて複数の指関節角度を調整する制御)」によって、ワークの形状に沿った安定した把持を実現する。

人が使う手袋を装着できる点、1100gほどと軽量な点なども特徴。カスタマイズが可能で、会場ではモモの箱詰め用に改良したハンドが動作する様子もVTRで披露した。